



滋賀県道路整備アクションプログラムの見直しに向けた地域ワーキングを開催

このたび滋賀県では、平成30年3月に公表した『滋賀県道路整備アクションプログラム2018』の見直しを実施することになりました。大津土木事務所では、12月14日に第4回大津地域ワーキングを開催しました。

第4回地域ワーキング開催概要

【日時】 令和4年12月14日（水）
10:00～12:00

【場所】 滋賀県危機管理センター 1階 大会議室

▶ 地域ワーキングの目的

大津土木事務所管内の地域課題を抽出し、その課題を踏まえた今後の道路整備について、色々な立場の方から意見をいただくことを目的とする。



アクションプログラム策定スケジュール

第1回
ワーキング

5年間を振り返り、地域の道路、交通の問題点や課題等についてご意見をいただきました。

第2回
ワーキング

第1回WGでいただいた意見に基づき、「地域の声(案)」「地域の重点項目(案)」を作成、提示し、意見をいただきました。

第3回
ワーキング

「地域の声」「地域の重点項目」の報告、地域の課題を解消する事業中箇所を提示し、意見をいただきました。

第4回
ワーキング

地域の声や地域の重点項目(最終案)を提示し、内容について意見をいただきました。

今回

アクションプログラム2023策定
(令和5年3月予定)

「地域の声」「地域の重点項目」(最終案)の提示内容

1 幹線道路と生活道路の機能分化

市街地では、幹線道路の渋滞や信号回避のために生活道路への抜け道利用が発生しています。生活道路では、歩道が未整備のところもあり、通勤通学・買い物といった日常移動の安全が脅かされています。

今後の道路整備にあたっては、経済活動を支え災害にも強い「幹線道路」と、日常生活を支える「生活道路」それぞれの機能に合った道路整備を行う必要があります。

併せて、ICT等、新技術の活用や標識の設置、交通規制や意識啓発など、関係機関と連携しながら様々な方法で生活道路への抜け道利用を抑制する必要があります。

2 歩行者や自転車の安全・安心につながる道路整備

生活道路においては、これまでの車中心の道路から、公共交通や自転車利用、歩行者など「人中心」の道路空間へシフトチェンジする必要があります。

特に、高齢化が進む地域や駅・病院などの周辺では、シルバーカーや車いす利用も想定したユニバーサルデザインの視点が必要です。

大津地域におけるピワイチルートには、生活道路内を走行する区間もあることから、歩行者・自転車・自動車が共存して安全に走行できる空間整備が必要です。

3 緊急時に強い道路整備

災害や事故等で幹線道路が通行不能となれば、大きな迂回が必要となり、救助活動に大きく影響します。そのため、幹線道路の機能向上と併せ、代替機能をもつ道路整備によるダブルネットワーク化が必要です。

4 今後の道路の使い方を考える新たなチャレンジ

新たな道路整備には多くの予算と時間を要することから、地域や関係機関と連携しながら既存道路空間の使い方を試行錯誤し、工夫を重ねることで課題解決を図っていく必要があります。

ICT等、新技術の活用や社会実験の実施など、新たなチャレンジが求められます。

「地域の声」

地域の
重点項目

1. 主要幹線道路の著しい渋滞を緩和する道路整備
2. 緊急時に強い道路ネットワークの整備
3. 居住誘導区域内における歩道整備

ワーキングでいただいた主なご意見

▶「地域の声」・「地域の重点項目」とりまとめ結果へのご意見

- ・地域の声というよりバス業界全体の課題として「2024年問題」がある。道路の渋滞により労働時間が長くなるが、収益の問題もあり運転手を増やすことは難しい。渋滞解消に向けて道路整備を進めてもらいたい。
- ・安全・安心につながる道路整備について、計画的に道路整備をしていくことも大事だが、事故等が発生した時や発生するおそれがある時にはピンポイントの対策も必要だと思う。

▶客観的評価マニュアルによる事業の評価へのご意見

【全体を通じたご意見】

- ・南海トラフ巨大地震等が発生すると津市も大きなダメージを受ける。防災関係の指標として「緊急輸送道路の整備」や「防災拠点間を結ぶ道路整備」等、細かく項目を分けて評価しているが、評価項目が分散することで点数が低くなっているのではないかと懸念がある。
- ・新規掲載された箇所は体感と合っている。人口密集地の整備が選定されており、選択と集中が表れた結果になっていると思うが、今後は志賀地域や南の地域をどう整備していくかが課題だと思う。

【拠点間ネットワーク整備へのご意見】

- ・高島大津線のリバーシブルレーンは、わかりにくくて危険であり、渋滞もしているので改善してもらえれば良い。
- ・リバーシブルレーン区間の真ん中の車線は、普段はあまり走行されておらず、混んでくると使われる傾向がある。ここは湖西道路などなかった昭和40年頃に整備されたものであり、運用については、現況の交通量を調べた上で、検討してもよいのではないかとと思う。
- ・地元の学校や地域も整備を願っている箇所が挙がっているので整備を期待している。
- ・高島大津線は、津市で交通量解析した結果でも混雑が激しい区間である。整備してもらえるのはありがたい。また本堅田衣川線や比叡山線は、隣接工区で津市も事業を実施しているので、連携していきたい。



【拠点内道路空間整備へのご意見】

- ・醍醐大津線は、生活道路で家の軒先にバスが当たるような幅員の狭い道路なので、重点項目にも入っているが歩道整備を今後も期待していきたい。
- ・醍醐大津線は、細かな右左折が多いところなので、歩道整備を進めてもらいたい。
- ・国道422号の南郷五丁目は、バス停前の道路が狭く、五丁目に入るカーブは鋭角で事故も多い。近辺は新興住宅地となっており小中学生も多いが、歩道が細く、カーブで見通しも悪い。地域からも要望が出ている。
- ・国道422号や醍醐大津線は、危険箇所として毎年のように通学路点検している箇所なので、そこが掲載箇所として挙がっているのはうれしく思う。ぜひ進めてもらいたい。また、幅員が広くなると通行車両が増えるので、横断歩道の設置や安全対策も併せてお願いしたい。

▶その他のご意見

- ・堅田地区の交差点で、1年間で6件の事故があり、標識の重要性を改めて感じている。
- ・工事が進むと工事車両も多く走るようになるので、その際の安全対策についてもお願いしたい。
- ・安全対策として、ポラードの設置をもらえるとうれしい。
- ・地域から信号や横断歩道、標識の設置についての要望があるが、それぞれ設置基準が設けられている。基準に沿って、必要な箇所に設置していくが、設置することで新たな危険が生まれることもあるので、関係各所と連携し、事故が1件でも減らせるよう道路整備と併せて検討していきたい。

◆◆◆ 地域ワーキング委員(敬称略、五十音順) ◆◆◆

青山 知子 [大津交通安全協会 女性部長]	高岡 裕子 [大津警察署交通第一課 課長]
大森 睦浩 [大津北警察署交通課 課長] (欠席)	竹平 陽 [公募委員]
小川 圭一 [立命館大学理工学部 教授] (座長)	西 耕一郎 [公募委員]
鬼塚 泰二 [大津市建設部道路建設課 課長]	野村 義明 [社団法人滋賀県バス協会 専務理事]
後藤 佳子 [大津市地域女性連合会 副会長]	丸山 忠司 [社会福祉法人大津市社会福祉協議会 事務局次長]
佐藤 祐子 [公益社団法人びわこビジターズ ビューロー 副会長] (欠席)	横田久美子 [大津市教育委員会児童生徒支援課 主幹]
須山 進 [大津商工会議所 観光運輸部会] (欠席)	

滋賀県道路整備アクションプログラム 地域別アクションプログラム 大津地域ワーキング
～大津地域ワーキングニュース～ 2023年2月発行

議事録URL
はこちら



【編集・発行】滋賀県大津土木事務所道路計画課

〒520-0807 滋賀県大津市松本1丁目2-1 TEL:077-524-2820 FAX:077-525-9352

E-mail: ha30100@pref.shiga.lg.jp URL: <https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kendoseibi/douro/329350.html>